

令和5年度 定期作況報告

〈令和5年5月20日現在〉

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 道南農業試験場

I 気象

根雪始は平年に比べ2日遅く、根雪終は7日早く、積雪期間は平年より8日短かった。

4月下旬：平年と比較して平均気温、最高気温、最低気温ともに平年並だった。降水量は平年の165%、日照時間は同96%だった。

5月上旬：平年と比較して平均気温は0.7℃高く、最高気温は平年並、最低気温は1.1℃高かった。降水量は平年の81%、日照時間は同75%だった。

5月中旬：平年と比較して平均気温は0.9℃、最高気温は1.1℃、最低気温は0.8℃高かった。降水量は平年の20%、日照時間は同103%だった。

以上、平年に比べ平均気温は0.6℃高く、最高気温は平年並、最低気温は0.8℃高かった。降水量は平年の76%、日照時間は同91%だった。

表1-1 気象表

調査項目	4月下旬			5月上旬			5月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	9.6	9.2	0.4	11.7	11.0	0.7	13.3	12.4	0.9	11.5	10.9	0.6
最高気温(℃)	14.8	15.0	▲ 0.2	16.8	16.5	0.3	18.9	17.8	1.1	16.8	16.4	0.4
最低気温(℃)	3.6	3.2	0.4	6.6	5.5	1.1	8.1	7.3	0.8	6.1	5.3	0.8
降水量 (mm)	26.0	15.8	10.3	15.5	19.2	▲ 3.7	5.5	27.0	▲ 21.5	47.0	62.0	▲ 15.0
日照時間(hr)	67.3	70.0	▲ 2.7	48.7	65.3	▲ 16.6	65.3	63.4	1.9	181.3	198.6	▲ 17.3

注1) 観測値は北斗市のアメダスデータによる。平年値は前10か年の平均値である。

注2) 表中▲印は「低」または「少」を示す。

表1-2 季節調査

項目 年次	前年		本年							
	初霜 (年月日)	根雪始 (年月日)	根雪終 (年月日)	積雪期間 (日)	降雪終 (年月日)	耕鋤始 (年月日)	晩霜 (年月日)	初霜 (年月日)	無霜期間 (日)	降雪始 (年月日)
本年	R4.10.22	R4.12.14	R5.3.06	83	R5.4.23	R5.4.05	R5.4.18			
平年	10.21	12.12	3.13	91	4.16	4.09	4.27	10.21	176	11.10
比較	1	2	▲ 7	▲ 8	7	▲ 4	▲ 9			

注1) 耕鋤始は農試データ、それ以外は函館地方气象台(函館市美原)の観測値を使用した。

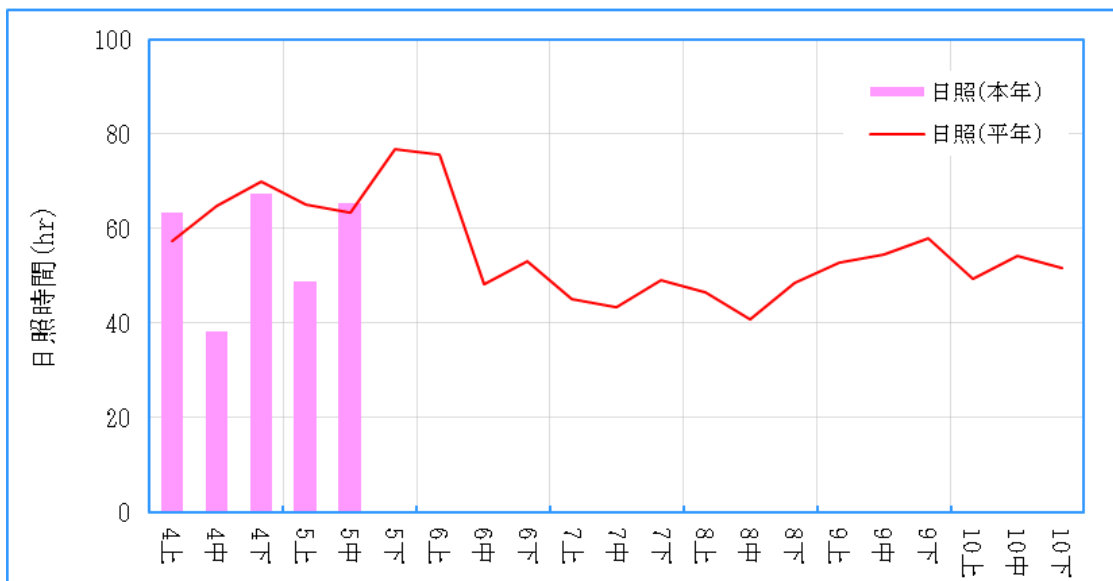
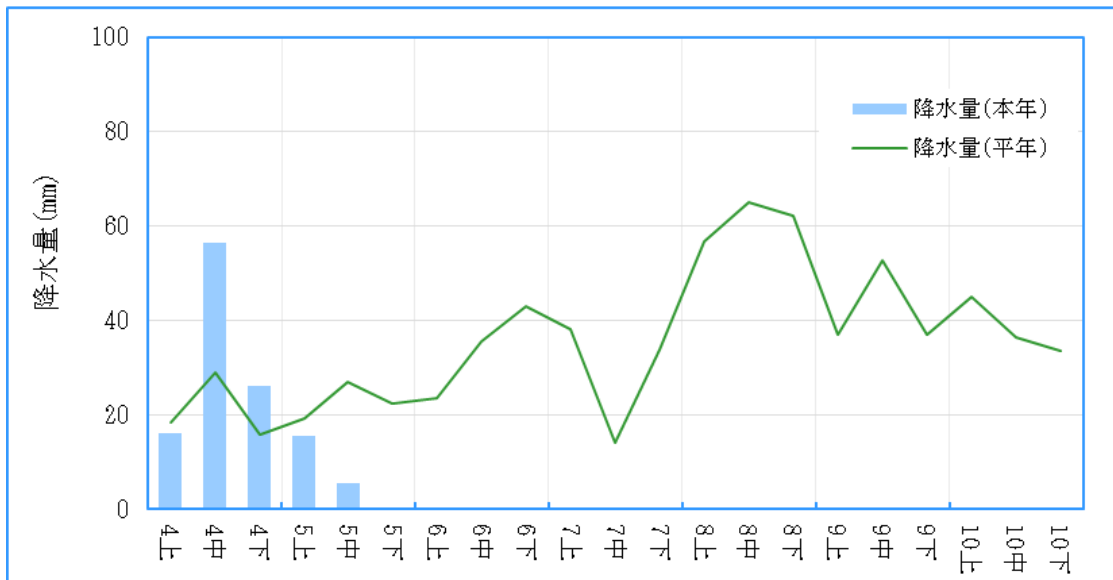
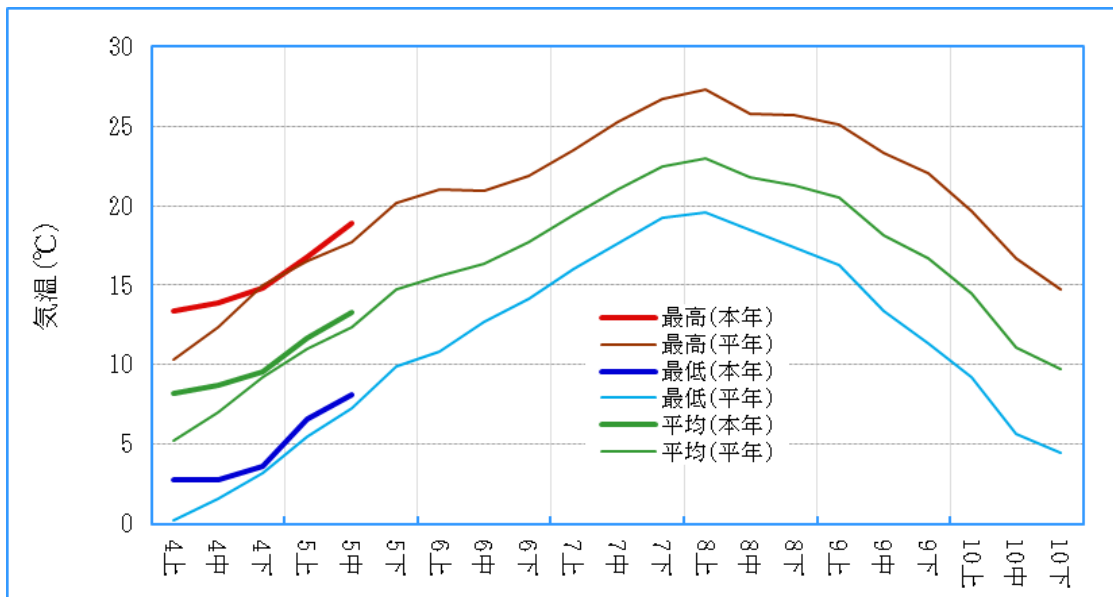
ただし、晩霜は函館地方气象台の観測値に基づく推定値(最低気温が1.3℃以下)とする。

注2) 平年値はてん蔵(前10か年)による。

注3) 表中▲は「早」を示す。

注4) 降雪終および晩霜の本年値は、5月20日現在においては未確定である。

気温、降水量及び日照時間の平年との比較(令和5年、北斗市)



II 作況（水稻）

5月20日：やや良

事由：播種は平年より1日早い4月21日に行った。出芽は順調で出芽までの日数は平年より1日短く、出芽期は4月26日であった。育苗期間中、4月下旬は気温・日照ともに平年並、5月上旬はやや高温で寡照、5月中旬はやや高温で日照は平年並に推移し、全体としてやや高温で寡照であった。移植は平年より1日早い5月19日に行った。移植時の苗の形質において、草丈は平年より長く、葉数は平年を上回っており、茎数は「ふっくりんこ」で多く、「ななつぼし」で平年並であった。苗の充実度を表す地上部乾物重/草丈の値は平年並であったが、地上部乾物重は平年を上回っていた。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

表2 水稻の生育

項目	品種名 /年次	ふっくりんこ			ななつぼし		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
生育期節	播種期 (月日)	4.21	4.22	▲ 1	4.21	4.22	▲ 1
	出芽期 (月日)	4.26	4.27	▲ 1	4.26	4.27	▲ 1
	移植期 (月日)	5.19	5.20	▲ 1	5.19	5.20	▲ 1
	幼穂形成期 (月日)		7.02			6.28	
	止葉期 (月日)		7.19			7.17	
	出穂期 (月日)		7.28			7.27	
	成熟期 (月日)		9.18			9.12	
	穂揃日数 (日)		6			6	
	登熟日数 (日)		52			47	
	生育日数 (日)		149			143	
移植時	草丈 (cm)	16.8	13.3	3.5	14.4	13.5	0.9
	葉数 (枚)	3.8	3.2	0.6	3.5	3.2	0.3
	茎数 (本/個体)	1.63	1.16	0.47	1.07	1.05	0.02
	地上部乾物重 (g/100本)	3.52	2.48	1.04	3.26	2.50	0.76
	地上部乾物重/草丈	0.21	0.19	0.02	0.23	0.19	0.04
本田生育	葉数 (枚)	6月20日	7.6		7.8		
		7月20日	10.7		10.7		
	止葉葉数		10.8		10.8		
	茎数 (本/m ²)	6月20日	530		467		
		7月20日	867		765		
		8月20日	737		681		
	草丈 (cm)	6月20日	32.2		33.4		
		7月20日	72.9		75.8		
		8月20日	92.6		92.7		
成熟期	稈長 (cm)		76.8		75.4		
	穂長 (cm)		15.9		16.2		
	穂数 (本/m ²)		721		670		
収量構成要素	一穂粒数 (粒)		45.7		49.6		
	m ² 当粒数 (×1000)		32.9		33.1		
	稈実歩合 (%)		94.1		94.1		
	m ² 当稈実粒数 (×1000)		31.0		31.2		
	同上平年比		100		100		
	登熟歩合 (%)		85.9		84.7		
	粒摺歩合 (%)		77.0		79.6		
	屑米歩合 (%)		6.0		2.9		
	精玄米千粒重 (g)		22.6		21.7		
収量	わら重 (kg/a)		68.7		69.3		
	精粒重 (kg/a)		77.4		75.4		
	精玄米重 (kg/a)		59.6		60.0		
	収量平年比 (%)		100		100		
	玄米検査等級 (等)		2上		1下		

注1) 平年値は前7か年中、令和4年(最豊年)、平成30年(最凶年)を除く5か年の平均値を用いた。

注2) 苗は中苗紙筒、栽植密度は25.3株/m² (33cm×12cm)、1株3本植え。

注3) 本田にはN、P₂O₅、K₂O成分をそれぞれ7.5、9.1、6.5(kg/10a)施用した。

注4) 篩目は1.90mmを使用し、精玄米重、千粒重とも水分15.0%に補正した。

注5) 登熟歩合は比重1.06の塩水で調査した。

注6) 表中▲印は「減」または「早」を示す。